

アルミ圧延品、二次合金生産とも二桁増

橋本健一郎氏 リポート②



橋本健一郎氏

十六日のFOMCを控え様子見などのマイナス材料もあつたが、ワクチン接種の世界的な普及など背景に需要拡大期待が高まりなどを好んでLMEアルミ相場はUP、六月十五日一時点で「五六四ドル(セツル)と月初価格から一〇一五ドルUPの前半締めとなつた。後半は、米セントルイス連銀総裁がFOMC予想よりもさらに前倒しの二三年利上げとティーバーリングを予想したことを受けたドル高、「デルタ株」の感染拡大とアジア中心にワクチン接種のペースが伸び悩むなどのマイナス材料もあつたが、米連邦準備理事会(FRB)パウエル議長の講演証言が早期利上げを否定、ハト派的だったことから安心感が広がつたことを好感しLMEアルミ相場はUP、六月末現在、後半スタート価格から八〇ドルUPの「五一八・五ドル。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一一〇・四→一一一・五(円)。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数は前年比六四・一%増の四七万「〇〇〇〇台。

◆新設住宅着工件数
日本建築統計によると、五月の自動車販売台数は前年比九・六

年同月比九・九%増と、三ヶ月連続の増加。新設住宅着工床面積は五、八五千m²で前二%増の一三万四、六九七台。

五月の新設住宅着工は、持家、賃貸及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月びととなつた。

年新設住宅着工戸数は七万〇、一七八戸で前年同月比九・九%増と、三ヶ月連続の増加。新設住宅着工床面積は五、八五千m²で前二%増の一三万四、六九七台。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニ

アルミニウム合金とスクランブルが大幅増

橋本健一郎氏 リポート②

■国際概況

六月前半は、相次ぐ張り米経

指標の発表でインフレ懸念が、長期金利上昇が、「一・六%台に」とドル高、十五

金が六・九%増の一・二四七t、スクランブルが四一・四%増の二万四、二五八t、アルミ缶が一四・六%減の六、八八一t。

輸入は新地金が前年比四二・一%増の一・一万八・五四五t、「次合金が」五七・三%増の九五二・〇五六t、スクランブルが六七・三%増の二九八t、合金スクランブルは一二・三%増の三・五一九t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・八%増の一・五万五、〇六二tと五カ月連続プラス。日本アルミニウム合金協会によると、アルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績は前年比六六・八%増六万〇、〇〇五tと、七カ月連続プラス。出荷は六七・四%増の六万〇、四〇七tと、七カ月連続プラス。

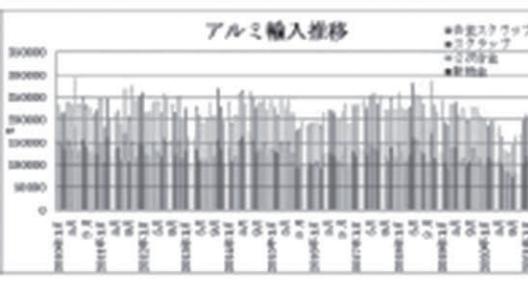
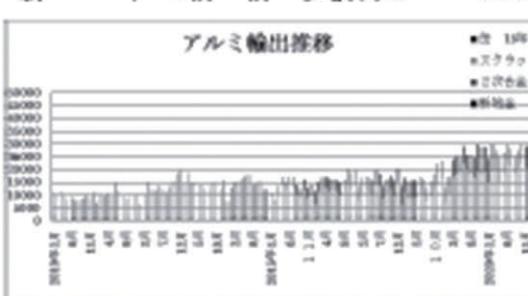
■国内概況まとめ

【自動車生産】日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数は前年比六四・一%増の四七万「〇〇〇〇台。輪胎は一・三七%増。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比九・一%増の一三万四、六九七台。うち乗用車八・八%増、貨物一・一・二%増、バス一・四%減。

【新設住宅着工件数】(六月へ繰く)



スクラップ景況予想、流通（一次問屋）在庫の玉薄続くか

（四面より続く）

【住宅着工戸数】

五月の新設住宅着工は、持家、賃家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比九・九%の増加となつた。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・九%の減少となつた。

新設住宅着工戸数は七万〇一七八戸で前年同月比九・九%増と、三カ月連続の増加。

新設住宅着工戸数は五・八五千戸で前年同月比二・六%増と、一カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八七万五千戸で前月比〇・九%減と、五カ月ぶりの減少。

【アルミ圧延・押出品生産量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・八%増の一五万五〇六二tと五カ月連続プラス。

このうち、板類は一〇万一・一五五tで二一・八%増と、五カ月連続プラス。押出類は五万一・九〇七tで二四・八%増と、三カ月連続プラス。

【アルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績】

日本アルミニウム合金協会によると、アルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績は前年比六六・八%増の六万〇〇五tと、七カ月連続プラス。

出荷は六七・四%増の六万〇四〇七tと、七カ月連続プラス。

【輸入】

アルミ新地金が前年比三・五・九%増の一三〇t、一次合金が六・九%増の一四七t、スクラップが四・四%増の一萬四・一五八t、アルミ缶が一四・六%減の六・八八t。

【見通し】

アルミ新地金が前年比四・一%増の一萬六・五四五t、一次合金が一九・七%増の九万一・〇五六t、スクラップが六七%増の一九八t、合金スクラップが一・三%増の三・五一九t。

【見通し】

五月の自動車生産が六四・一%増。六月国内販売台数が九・二%増。

生産急増は半導体不足の影響はないとの認識。販売も増加。
今後生産、販売とともに増加していくか注視。
・日本アルミニウム協会発表の圧延品の生

産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は

前年比二三・八%増の一五万五〇六一tと五カ月連続プラス。

今後プラスが続くかの動向に注視。

・日本アルミニウム合金協会によると、アルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績は前年比六六・八%増の六万〇〇五tと、七カ月連続プラス。

出荷は六七・四%増の六万〇四〇七tと、七カ月連続プラス。

プラスが続くか注視。

・アルミ輸出は相場の急騰や外需が比較的好調なことを受けてアルミニ缶以外大幅増。

・アルミ輸入は国内自動車販売の好調から二次合金とスクラップが大幅増。

二次合金とスクラップが大幅増。

【スクラップ景況予想】

流通（一次問屋）在庫は、LME価格が一四〇〇一・一五〇〇ドル台で高止まりしたことから玉不足は続く。

需要面に觸しては、前月に続き販売が堅調な事による材料不足や国際相場の高騰からの輸入玉の不足から、メーカー在庫は希薄。

【LME・為替予想】

今月は①米経済、景気対策と②中国の景気動向、原料価格抑制策に左右される。

①に関しては
バイデン米政権は二十四日、米国で超党派で一兆ドル規模のインフラ投資が合意されたことから、米景気は回復傾向が続くのではないか。
今回の超党派によるインフラ投資法案の合意は、共和党が米国雇用計画のなかで賛同できる項目であるインフラ投資（ハードインフラ）を中心まとめた内容。

②に関しては

十六日に発表されていた五月の中国工業生産の伸びが四月の九・八%から八・八%に鈍化したうえ、二十七日には利潤の伸びが同じく五七%から三六・四%に大幅に減速したこと、中国政府による原材料高騰への取り組み強化策の実施も効果があまりなかったこと。

これらを踏まえた七月のアルミ価格は二四〇〇一・六〇〇ドル（セツル）との予想。ドル円値は一〇九円一一一円（TTM）台を予測。

スクラップ購買価格に関しては、据え置きから五円高程度と予測している。